

# 国際融合文化学会

International Society for Harmony & Combination of Cultures

ISHCC ニュースレター 第8号 (2002.11.09)

モットー：全ての生あるものがその「生」を享受し全うしうる調和を創造すること

## 英語能公演と ISHCC 国内第五回大会（堺）が開催されました

本年度の ISHCC 主催英語能公演（於：堺能楽会館）及び国内第五回大会（於：ホテル南海さかい）が、それぞれ10月26日と10月27日に開催されましたのでご報告いたします。

英語能公演は、100名を超す観客が集まる盛況ぶりでした。今回の趣向として公演直前に日・英語による解説レクチャーを、そして公演直後にも日・英語による質疑応答を入れて、観客の皆様のご理解に努めましたが、それに加えて狂言の安東伸元先生（重要無形文化財（能楽）保持者）によるアイ狂言の語りや、やはり皆様のご好評を得ていました。今回は私どもゼミ学生も地謡で出演し、貴重な経験を積ませていただきました。早くも「来年もまた」という声が上がっており、私たちスタッフは来年に向けて夢を膨らませております。

それから、第五回研究発表大会は、上田会長による基調講演の後、下記の6件の研究発表がありました。基調講演で上田会長は、19世紀英国の詩人 John Keats の詩を引用し、聞こえる音の素晴らしさ、そしてそれ以上に聞こえない音の素晴らしさを語ってくれましたが、続く研究発表もいずれも各20分の持ち時間に収まらない、興味深い余韻の残る発表でした。（菊地）

2002.10.27 ISHCC 堺大会 発表要旨

氏名	和文タイトル
	英文タイトル
	発表要旨
ウォータース雅代 WATERS Masayo 日本大学大学院 総合社会情報 研究科 M1	原文、翻訳、映画による『ハムレット』の楽しみ方
	On <i>Hamlet</i> : the Original, Japanese Translations and Movies
	シェイクスピア悲劇の最高傑作ともいわれる『ハムレット』。私は、残念なことになまだその舞台を見たことがありません。私のように舞台はまだだが、『ハムレット』の翻訳を読んだという方はけっこういらっしゃると思うし、英文学の勉強で英語の原作を読んだという方も多いと思います。原作の台詞そのままのような映画もあります。今回、原書、翻訳、そして映画の3種類の『ハムレット』に触れ、私なりにそこから見えてくるハムレットの性格について考察してみました。17世紀から現代まで、時代をこえて、文化や言語の壁を乗り越えて、世界中で翻訳され上演され、多くの研究の対象になっているハムレットですが、その魅力についてほんの少しではありますが、私なりに探ってみました。

<p>加藤昭裕 KATO Akihiro 日本大学大学院 総合社会情報 研究科 M1</p>	<p>能の現代における意義</p> <p>The Contemporary Significance of Noh Theatre</p> <p>現代人は意識の一部を酷使する反面、無意識を抑圧しており、両者が乖離し半ば病的な状態にある。能は意識では捉えられない無意識に潜む元型的イメージを視覚化させると同時に、視覚よりもさらに記憶を呼び覚ます効果の高いとされる聴覚にも働きかけることで、無意識の世界を活性化させる。その意味で能は現代人の意識と無意識を結びつけるアートセラピー機能を持っている。また今現在、能の上演時間が室町中期のおよそ二倍になったことで、単位時間あたりの視覚刺激量が減少し、大脳表層部が加熱している現代人にとって、より負担にならない芸能へと進化した。さらに、『舍利』に見られるように、心のよりどころを失いかけている現代人に短時間で仏教の真理を教えてくれる、悟りの芸術としての側面を持っていることも見逃せない。</p>
<p>具島美佐子 GUJIMA Misako 日本大学大学院 総合社会情報 研究科 M1</p>	<p>能『羽衣』の普遍性</p> <p>The Universality of the Noh <i>Hagoromo</i></p> <p>能『俊寛』は現在物で人情的内容であり、演者と観客との距離はとても短く感じ、特にシテとの距離は短いもののような感じがした。シテはいつのまにか舞台上に登場されていた。「平曲」のメロディーと語りへの感動、「狂言」での風雅さと滑稽さへの笑いとは異なり、「能」の場合は自分とシテが一体になったような、自分も俊寛であるような錯覚をもったかもしれない。また過日レニングラード国立バレエの『白鳥の湖』を見る機会を得た。この時も自分が舞台上にひきつけられるようではあったが、その一体感の一つの美の世界に身を沈めるような耽美的な境地であったようである。他の演劇と比べると「能」や「バレエ」の方が演者と観客の距離はずっと短いものと、私には思われるのである。さらに「バレエ」の動きが具象的であるのに対して、「能」の動きは象徴的である。静的な表現で人間の本质を描こうとすることが特徴であろう。様々な葛藤を抱えている現代人には、象徴性のある「能」により自分の心が洗われるような癒しを受けるに違いない。</p>
<p>花岡真由美 HANAOKA Mayumi 日本大学大学院 総合社会情報 研究科 M2</p>	<p>日本製アニメの特徴とその可能性</p> <p>The Characteristics and Possibility of Japanese Animation</p> <p>1956年、「東洋のディズニー」たることを目指して設立された東映動画は、伝統的な技法で、劇場用長編を製作した。だが、日米の文化の違いを反映してか、東映動画の長編作品は、ディズニーの長編アニメーションとは、異なる傾向を有していた。また、ディズニーに心酔していた手塚治虫も、TVアニメ『鉄腕アトム』(1963~66)の製作には、作画枚数を極端に減らした、新たな技法を開発・使用するしかなかった。こうした新たな技法の開発・発展によって、日本製アニメの諸特徴は、さらに顕著になっていった。</p> <p>そしてついに、日本製アニメは、日本独自のANIMEとして、世界でもてはやされるようになり、ディズニーすら、日本製アニメの特徴を取り入れ始めている。</p> <p>本発表では、日本製アニメの特徴を、東映動画とディズニーの比較によって明らかにしたのち、闘争を描くことで、暴力的と批判されがちな日本製アニメが、平和に貢献し得る可能性について、考察してみたい。</p>

<p>木佐貫洋 KISANUKI Hiroshi 日本大学大学院 文化情報 修士</p>	<p>小説『風濤』の風景 旅から学んだ韓国の人々の歴史観</p> <p>The Scenery of Novel <i>Wind and Waves</i> by Yasushi Inoue</p> <p>The Historical Feelings of the People in Korea as I Learned from a Travel.</p> <p>井上靖著『風濤』は高麗の立場から元寇を描いたものである。それは、元の属国となった高麗の悲惨な運命を描いたものでもある。同じ立場に追いやられながら、対立の構造に組み込まれて行く人々の苦悩が描かれている。それは国家間のレベルでも同じことがいえる。</p> <p>『風濤』は韓国の人々に受け入れられている。1968年から1986年の間に、六度にわたって韓国語に翻訳され出版されている事で分る。『風濤』は高麗王や重臣達の苦悩を史実に基づいて描かれている。高麗の歴史を事実として描く事そのものが、韓国の人々に受け入れられていると言う事である。</p> <p>そのことを、『風濤』の故地を訪ねて、人々の様々な話から強く感じさせられた。そして、少しは韓国の人々の心に触れることができた。事実を知ることは人々の心を知ることであり、お互いの心の理解と融合意識を高める事である。</p>
<p>宮西ナオ子 MIYANISHI Naoko 日本大学大学院 総合社会情報 研究科 M2</p>	<p>早起きと融合意識</p> <p>早起きの本</p> <p>パート1：早起きは人生の甘露</p> <p>パート2：朝の2時間がその人の1日のすべてを左右する</p> <p>パート3：早寝早起きに関する名言</p> <p>パート4：起きてすぐ行動することが人生を成功させる</p> <p>パート5：人間は宇宙の子、生体リズムによって活動する</p> <p>パート6：睡眠のメカニズム</p> <p>パート7：早寝早起きは脳を活性化する</p> <p>パート8：早寝早起きすると運が上昇する理由</p> <p>パート9：早く起きるだけで、身体が活性化し、頭が冴える</p> <p>パート10：よい眠りを得るためにしたいこと</p>

## 学会誌『融合文化研究』第二号の投稿論文を募集します

ニューズレターの第7号で、当学会の学会誌『融合文化研究』が創刊され、第一号が発行されたことをお伝えしましたが、続く第二号の投稿論文を募集いたします。

尚、先の堺大会に付随して開催した役員会において、本件募集要項の一部を改訂しましたので、下記の募集要項に沿って投稿いただけるようお願い申し上げます。募集要項については、当会のホームページ（<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/index.html>）にて常に最新の募集要項を案内しております。時々ホームページをチェックいただければ幸いです。

また、その年度の会誌については、その年度の会費を納入いただいている会員の皆様にお届けしたいと考えております。まだ会員になられていない方、或いは会費を未納入の方は、この機会にご入会いただけるよう、お願い申し上げます。

以下、改訂後の募集要項です。

## 国際融合文化学会 (ISHCC) 『融合文化研究』原稿募集要項

### 編集規定

1. 会員の国際融合文化に関わる研究論文の発表の場として、学会機関誌を創刊し、以降原則として年2回発行していくものとする。学会機関誌の名称は『融合文化研究』とする。
2. 投稿の資格は、投稿時点で、その年度の会費を納入している国際融合文化学会の会員に限る。
3. 原則として年に2回論文を募集する。募集期間については都度、学会事務局（または編集委員会）より連絡するものとする。
4. 応募論文は融合文化に関連するテーマであることが望まれる。応募論文は学会誌等に未発表の論文であること。但し、口頭発表済だが学会誌等に論文投稿していないものについては、その旨明記していれば審査の対象となり得る。
5. 原稿の採択および掲載順は、審査委員会（編集委員会が兼ねる）で査読の上、決定する。
6. 原稿の採択が決まった執筆者からは、学会機関誌発行にかかる費用の一部を、執筆者負担金として徴収する。写真印刷が必要な場合は、執筆者の負担として、別途必要な費用を徴収する。執筆者負担金の金額は、2ページにつき2,000円とする。ただし、ページ数の算定は執筆規定の1による。
7. 執筆者には『融合文化研究』5冊を贈呈する。また、希望者には抜刷りの印刷にも応じる。抜刷り印刷にかかる費用は、別途申込者から必要な費用を徴収する。
8. 投稿論文は返還しない。

### 執筆規定

1. 原稿の書式 Microsoft Word を使って原則として横書きで作成すること。  
B5判 横書き 40字 30行 10.5ポイント 4ページ以上、12ページ以内（タイトル、注、図版等すべてを含めて）ただし、ページ数が奇数となった場合は、編集者が空白のページを加え、偶数とする。5ページなら6ページとなる。  
余白（上25mm 下20mm 右20mm 左20mm ヘッダー15mm フッター10mm）  
本文のフォントは、和文はMS明朝、英文はCenturyとする。英字と2桁以上の数字は半角で入力すること。
2. 和文タイトルには、英訳を付けること。英文タイトルには、和訳を付けること。  
タイトルのフォントは、和文はMSゴシック 14ポイント、英文フォントはCentury Gothic 14ポイントとする。
3. 和文論文には英文の要旨と付けること。英文論文には日本語の要旨を付けること。要旨は7～8行とする。
4. タイトルの後、1行あけて英文タイトルを入れ、1行あけて氏名を入れ、1行あけて要旨を入れ、2行あけて本文を書き出すこと。
5. 原則として、提出された原稿をそのまま版下とし、校正は行わない。編集委員会でページ付けと書式の統一を行う。
6. 原則としてE-mailの添付ファイルで提出すること。画像等を含んだファイルでサイズが大きいときは、CD-RまたはMOで提出すること。提出されたCD-RまたはMOは返還しない。
7. 執筆希望者はあらかじめサンプルファイルを下記よりダウンロードして参考にすることが望ましい。  
<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/wanted>
8. 本稿に規定されていないことは必要に応じて編集委員会で検討し定める。不明な点がある場合は編集委員会に問合せること。

《問合せ先》本件についてのお問い合わせは、下記にお願いいたします。

ISHCC 実行委員

竹村 茂 2000c14@gssc.nihon-u.ac.jp

菊地善太 2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp

## 田口和夫先生、名誉会員に

文教大学の田口和夫教授に当会の名誉会員にご就任いただきました。田口先生は文教大学大学院言語文化研究科の研究科長で、能・狂言の研究において著名な方です。田口先生からアドバイスをいただくことで、当学会は今後一層発展していくことでしょう。田口先生、よろしく願いいたします。

## 終身会員のご報告

当学会も発足してから2年が経ち、趣旨に賛同して会員になってくださる方も増えてきました。そんな中で終身会員は、これまで当学会の母体である日本大学大学院の教員や学生からの申込みだけでしたが、この度、明星大学大学院の井上英明教授から終身会員のお申込みをいただき、終身会費をお振込みいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

尚、下記に、終身会員の氏名のみ公表致します。(2002年11月5日現在)

坂本典子様、 石井洋子様、 西岡妙子様、 三輪京子様、 片山博様、  
高橋明美様、 吉田友明様、 竹内正人様、 今清水功様、 菊地善太、  
上田邦義様、 情野瑞穂様、 井手美弥子様、 安田保様、 花岡真由美様、  
宮西ナオ子様、 棚田茂様、 井上英明様(今回)

終身会員の皆様、役員の皆様、そして年会員の皆様、今後とも色々ご意見やご提案を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

### 【会費のご納入について】

ご協力いただける方は、下記の郵貯口座へのお振込みをお願い申し上げます。

口座番号：00120-1-550305 口座名義：ISHCC

年会費 一般会員：3,000円、学生会員：2,000円

或いは、終身会員：30,000円(次年度以降、会費支払い免除)

## 編集後記

こんにちは。編集委員の菊地です。秋の公演と発表大会が無事終わり、ほっと一息ついております。また次の学会誌(第二号)の論文投稿募集を始めますので、公演、大会の報告も兼ねてニュースレターを発行いたします。

事務局の竹村茂さん作成・運営の当会ホームページも是非ご覧ください。

( <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/index.html> )

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集委員 菊地 善太